1q 学校番号	３０１８

令和８年度　総合造形科

教科	総合造形	科目	造形基礎ⅡB	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	デザインの色彩（日本色研事業株式会社）						
副教材等	配色カード 199a						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

色の選択の根拠となる理論を基礎から学びます。トーン分析に依存することなく、あくまで色の３属性(明度・彩度・色相)の理解、発想で考えることが重要です。
色を感覚的な、いわゆるセンスだけで捉えるのではなく、論理的に色を認識しコントロールすることで誰もが幅広い色彩表現が可能になること、造形基礎ⅡA デッサンと対になる明度設計の重要性を体得してください。

2　学習の到達目標

色の三属性を理解し、日常的に活用して制作に活かすことをめざします。
【知識及び技能】相対的な明度差を理解し、有彩色をグレースケールに置き換えて捉える力を身に付けることをめざします。
【思考力・判断力・表現力】テーマに応じて、色相対比による「見え方の変化」を理解し、それを踏まえた配色設計ができるようになります。
【学びに向かう力】配色カードを積極的に活用し、多様な彩度を取り入れた深みのある表現を自ら考えられる姿勢を育てます。
また、明暗・寒暖・硬軟・軽重・動静といった色彩表現の基礎概念を意識し、色の組み合わせや構成を理解して実践できるようにすることをめざします。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	●明度対比（明度差）を意識した色作りができる ●色相対比（色味の違い）を意識した色作りができる ●彩度対比を意識した(画一的な彩度にならない)色作りができる ●均一な色面を作ることができる（高度な平塗り） ●精度の高い作図ができる	●テーマに沿った明度設計を考えることができる ●テーマに沿った色面構成を考えることができる ●色相対比を意識した配色計画を試みることができる ※ワークシートによる考えの整理	●前向きに授業に向かうことができる ●道具の管理ができる ●能動的に配色計画を考えることができる ●配色カードの活用ができる ●作品に対する検証ができる ●合評時における発言やメモが見られるか

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1		９段階カラースケール（単色） ９段階カラースケール（９色・縦３×横３）	a:定規、三角定規等の正しい使い方。正確な作図。配色カードを用いて明度段階を理解 b：段階的なカラースケールの表現のための工夫 c：カッターナイフや砂消しによる修正、見本となる配色カードの自主的な活用	作品	作品 試作の有無	余白部分の綺麗さはみ出し箇所の修正 正確丁寧な記名
		透明視	a:明度設計を行い、視認性を高める意識ができているか b:色相、補色関係・中間色の理解 c:配色カードを用いて色相の検討	作品	作品	余白部分の綺麗さ
2		２７段階のグレースケールを活用したカラーキューブ	a:コンパス、定規を用いた正確かつ効率的な作図 明度設計を意識した配色 整った平塗りによる彩色 b:彩度の高い色を積極的に使えているか、また多様な色相を使えているか c:余白の綺麗さの保持、カッターナイフや砂消しによる修正	作品	作品 ワークシート	余白部分の綺麗さ 正確丁寧な記名 ワークシート
		言葉からイメージを広げて、配色計画を立てる＜春夏秋冬、朝昼夜　等＞	a:明暗、寒暖、軽重、硬軟、動静を意識した言葉出し、それに基づく色面構成、明度設計の理解と完成度 b:色面構成と明度設計を意識した多様な彩度、色相分布 （季節そのものを表現した色使い） c:参考となる資料を独自に収集している ワークシート活用の度合い	作品	作品	余白部分の綺麗さ 正確丁寧な記名 ワークシート

3		「鉛筆と曲線」をテーマとした色彩表現	a:モチーフの形態、構造を意識し部品の質感を意識した明度設計を考える b:自身が策定したテーマに沿った配色表現を試みる ※固有色に縛られず自身の意図に合わせた配色とする c:参考となるカラーサンプルの収集	作品	作品	余白部分の綺麗さ 正確丁寧な記名

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度